

財団だより

多摩川

1998.6 第78号



イシガメ (カメ科)

甲の色は黄緑色を帯びた灰褐色。
ミミズ、水生昆虫、魚、水草な
どを食べる。池や川に見られる。
甲長 17cm



清掃活動終了後、野草のテンプラの準備をする参加者 (5月17日・旧巨人軍グラウンド付近)

■多摩川現風景■

(34) 多摩川クリーンエイド

今年も多摩川一斉清掃のキャンペーン「第6回多摩川クリーンエイド」が行われた。昨年は56活動単位、104,000人の参加があった。ごみの量も228トンというからたいへんなものである。今年も、財団の職員も参加した。

1. メインデーの4月19日(日)に「多摩川を美しくする会」は稲城市の是政橋から多摩川原橋の間の河川敷で活動を行った。ガールスカウト、ボーイスカウト、少年野球チームの活躍が目立つ。丈の高い枯れた草原のなかには足を踏み入れにくい、飲料缶がたくさん散らばっているようだ。河川敷の全体のなかで草原の部分が大いなので、かくれたごみが気にかかる。9時から10時30分までで活動は終了した。

2. 5月17日(日)多摩川下流の旧巨人軍グラウンド付近では東京都の環境学習リーダーを中心に約50人が参加して盛大に行われた。夜来の雨もすっかり晴れ上がり、青空の下、ごみ袋を「可燃物」、

「不燃物」、「資源」と分けて、材質別にデータを取りながら河川敷のごみを回収した。さすが環境学習リーダー、環境問題を楽しみながら取り組む仕掛けを考える。ごみ拾いの後、「野草のテンプラパーティー」、「野草の講習会」、「人形劇」などいろいろなイベントを盛り込んである。初めて参加した人もすっかり溶け込んで有意義な一日を過ごしたようだ。このグループは毎年参加者が増えており、きめこまかい努力が着実に実っているようだ。

●関連する財団の研究助成

(一般研究)

- ①多摩川における散乱ごみの状況とその対策に関する研究
1995年 鈴木徹也 ANSER in たま (No.92)
- ②多摩川の河川清掃についての歴史と一斉清掃の実施による参加者の意識と散乱ごみの実態についての調査
1996年 小島あずさ 多摩川クリーンエイド (No.99)
- ③多摩川における青少年のあそびと環境教育の研究
一次世代の多摩川の守り手を育てる—
千葉勝吾 東京都立田園調布高校 (成果印刷中)
- ④多摩川をモデルとした「河川環境」の保全に関する住民参加型の手法、制度についての調査・研究
山道省三 多摩川センター (現在研究中)

多摩川散歩

■みんなで探した252個の巣■

東京都世田谷区「ツバメの繁殖分布調査報告書

発行：財団法人せたがやトラスト協会

ツバメは、春から秋にかけて、フィリピンなどの南の国からはるばる日本へ訪れ、ヒナを育てる野鳥です。多くは民家などの軒先に巣をかけるため、私たちにとってもっとも親しみやすく、また身近な野鳥となっています。

しかし、ツバメを都市部で見かけなくなった、という声を最近聞くことがあります。では、私たちの街、世田谷ではいったいどうなのでしょう。

区内で野鳥調査や観察会などを実施しているトラスト協会のボランティアグループ「野鳥ボランティア」のメンバーの声をきっかけに、メンバーが中心となって、世田谷でツバメがどれくらい巣をつくり、また子育てをしているのかを、今年の春から夏にかけて調査しました。区民の方を中心に広く呼びかけて募集し、また独自に調査・確認し、集計した結果、世田谷には（最低）「252個」のツバメの巣を確認することができました。

この報告書には、区内全域のツバメの巣の分布図や、ツバメの巣の多い商店街の紹介、またツバメはどのようなところに巣を作るのかを考える章や、人とツバメとのふれあいのエピソード、また区内のツバメリストなどを掲載しています。今回が初の本調査であるため、現状報告としてまとめていますが、今後も継続して調査を実施し、これを初年度に5年後の平成13年度に、改めて報告を行う予定です。

報告書の仕様は、白黒・A4版、54ページです。この手作りの報告書をご希望の方に1冊150円（実費）でお付けします。

ご希望の方は下記の要領でお申し込みください。

■直接協会までおこしいただくか、通信販売をご利用ください。

通信販売：郵便局の振込み用紙に次の項目をご記入の上、360円(150円+送料210円)をお振込みください。①「ツバメ報告書」希望、②郵送先(名前と住所、電話番号)

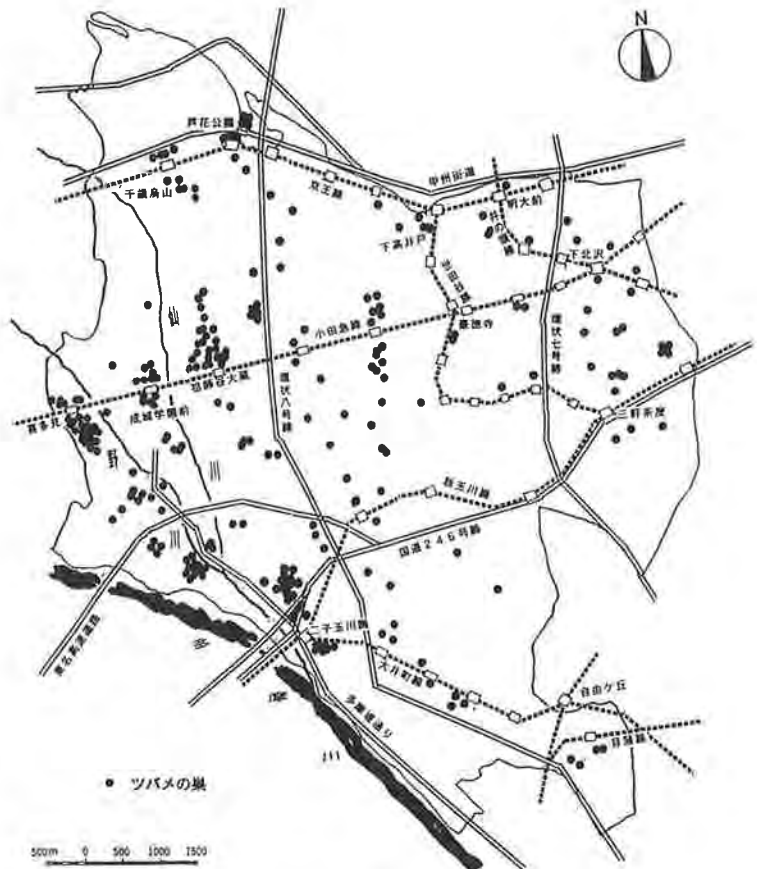
口座番号：00170-8-19800

■連絡先：〒157-0066 世田谷区成城6-2-1

(財)せたがやトラスト協会 ☎03-3789-6112

☎03-3789-6114

ツバメ営巣分布図



▲「ツバメの繁殖分布調査報告書」より抜粋

私と多摩川



多摩川の源流 —水干—

みずとみどり研究会 鈴木君枝

私が「川」というものを意識し始めたのは、一体いつのことだったのでしょうか？多摩地域で生まれ育った私にとって、「川＝多摩川」というほど、多摩川は一番身近な川でした。

中学1年生になったときに、学校での環境問題の取り組みの中で、水質調査に初めてふれて以来今まで8年間、水環境について自分なりに考えてきました。学校では水質調査以外にも、ゴミ問題や有機農法、リサイクル、南北問題など様々なグループがありましたが、あえて水質調査を選んだのも、多摩川でよく遊んだ思い出があったからかも知れません。（この段階で私の人生が変わったのかも知れませんが…）

中学2年の夏、水質調査に興味を持った私を見て父が、「多摩川の源流を見に行こう」と、多摩川の源流のある笠取山まで連れていってくれました。ちょうど夏で、自分より背丈の高い草に囲まれて父の姿を見失い、道を見失い、「女子中学生、東京都内で遭難?!」という夕刊記事が頭に浮かんだものでした。

やっとの事でたどり着いた多摩川の最初の一滴は僅かで、「多摩川河口まで138km」という看板が出ていなければ、本当にこれがあの大きな多摩川になるとは信じられませんでした。水は、冷たくて、澄んでいて、一筋の水が集まってやが

て、流れになる…なんて、綺麗なんだろうと思いました。

この体験がきっかけで、ますます“水”にのめり込むことになり、「みずとみどり研究会」に参加し、大学進学の際も“水”に関する勉強が出来ることを条件に現在の大学に決めました。今は微生物を使い工場排水などを浄化する勉強に取り組んでいます。

さて、「みずとみどり研究会」は各地域で環境問題に取り組んでいる多くの会員の方々が集まり、それぞれ一生懸命活動をされています。多摩の水と緑をまもる、という会の趣旨のもと、地域の環境を守ることに力を注いでいます。水も緑も生きています。清流といわれ続けている全国各地の川も汚染が始まりつつあるというニュースを耳にし、愕然とした思いに駆られ、また、地球上の森林地域の減少に心を痛めたのは、私だけではないと信じています。

私の母は、多摩川の支流“浅川”の近くで生まれ育ちました。夏になると浅川で泳ぎ、父親に釣りを教えてもらったのも浅川だったと、水が流れているのかわからない浅川を見て嘆いていたのは私がまだ幼いころのことでした。「いつになったら、またあの川で子供たちの歓声上がる日が来るだろうか…。」この、母のつぶやきが私の耳にのこっています。

昨年、「公害防止管理者 水質関係第一種」の資格を得ました。産業から排出される水をいかに浄化して河川に送り出すか。これが今の私の勉強の柱となっていますが、「みずとみどり研究会」での自然の河川水や、湧水を守る活動も併せ、総合的な水環境についてこれからも学び、研究していきたいと思っています。そして、市民、研究者、行政、それぞれの立場の方々と協力しあい、多摩川を含めた水環境について考え、行動していくつもりです。

多摩川の最初の一滴が、長い旅の末、海にたどり着くまで、清らかなままだることを願ってやみません。



よみがえ

甦れ！多摩川

■ 浅川を歩くーその3 ■

(陵北大橋～浅川上流端)

陵北大橋で山入川に別れをつけ、浅川（北浅川）の右岸をさかのぼってゆく。

陵北大橋の上からみる浅川はきれいな水が豊かに流れている。堤には桜が散り始めて、風がふくと一斉に、雪が降るように川面に流れ込んでゆく。壮観ともいえる景色である。

左岸は竹藪が迫っている。川幅の2割くらいの水の流れが二つ、三つに分かれて流れている。

側道に行こうと橋のたもとを降りて行くと、道の前方の民家の入り口に犬が二匹つないであり、しきりと吠えかかる。とても通れる状態でないので、川から離れて、迂回して他のルートを探すこととした。

元木橋の上から浅川上流をみると、深みのある清冽な流れが、川幅の1/4ほど流れている。右岸の土手には桜が満開で、雑木林が芽吹いてきて、かすかに緑がかった。流れの両側の草が緑を帯び、向こうの堤の上には桜が白くこんもりと見える。またその向こうに陣馬山の山並みが見える。雑木林を左手に浅川の右岸を歩いて行く。

夕焼け橋は真ん中あたりが円形に膨らましてあり、清流とかかれた造型が設置してある。

アヒルが三羽ばかりいる。左岸の川原には日曜菜園がいくつか点在している。

大きい石を積み上げた堰が自然に近い川の流れを造っている。どこかでうぐいすがないている。

川原宿橋につく。このあたりの堤は桜の木がたくさんあり、いまが桜の時期である。川原宿東児童遊園をすぎて少しゆくと、川原宿大橋に着く。深沢橋の左岸のあたりは丘陵が迫っており、里山の風景がまだ残っている。

杉の植林地を過ぎて行く。雑木林と違って、暗くて下草も陽射しをさえぎられているためか、元気がない。「この道路は連続雨量150mmを越えると通行止めになります。」という標識が出ている。陣馬街道沿いに川は流れている。恩方第一小学校を過ぎ、松竹橋に着く。松竹のバス停には「バスは定員約80人、マイカーはほとんど一人乗車です。マイカーによる渋滞がなくなればバスはもっと早く着くようになります。」というマイカーをやめて、バス通勤をすす

める広告が貼ってある。温暖化防止のためにも必要なことである。

八王子農協恩方支店の駐車場には「観光農業」の案内がされている。リンゴ、イチゴ、椎茸、草花、岩魚、山魚、などが記されている。漁協の遊漁証売場では料金が次のように掲示されている。

ニジマス、ヤマメ、ウグイ、年券が3,610円、1日券が1,030～520円、雑魚310円とある。浄福寺はしだれ桜が盛りであり、真言宗知山派のお寺で、多摩八十八ヶ所第六十六番霊場でもある。このあたりは大石氏の中世城郭のあとである。大沢橋を過ぎ、恩方中学校の前に行く。この辺になると、バスは1時間に1本で、帰りが心配になる。板当橋、佐戸橋、駒木野橋と過ぎて行く。このあたりはずーっと両岸が茂みに包まれて、きれいな水が豊かに流れている。陣馬街道沿いには、鉄工所が多い。この辺りでは、近所からの苦情も無く、仕事がやりやすいのだろう。黒沼田橋から下流を見ると、左岸側は丘陵の斜面を利用した畑があり、後の山の竹藪、雑木林とあいまって、里山の風景がみられる。すこし行くと、河床がごつごつした岩石になり、白波をたてて水が流れている。狐塚という地名の場所を過ぎる、稲荷神社もある。川の流れを堰とめて、釣り堀にしている。「北浅川鱒つり場」がある。ルアー、フライ専用釣り場で、入漁料は3,000円とある。力石橋の上流は三面をコンクリートで固めた川である。昭和橋、宮尾橋、夕焼け小焼け橋、八王子市が建てた「夕焼け小焼け文化農園」がある、昔の農家の生活を実際に体験するさまざまな施設がある。オオルリがときどきないている。高留橋を過ぎると陣馬山高原、和田峠もまもなくである。落合橋で北浅川は上流に向けて、案下川と醍醐川に分岐する。案下川をさかのぼってゆく、流れはだんだん溪流になってゆき、山が迫って、谷が深くなってくる。林道鞍骨沢線の表示があり、山の奥へ道が向かっている。くぬぎ沢橋の下では流れは細くなっている。しばらく行くと、やっと浅川の上流端の標識にたどりついた。

案内図



財団からのお知らせ

第4回とうきゅう環境浄化財団 助成研究ワークショップのご案内

「里やま 一人と自然の共生」～多摩川からの報告～

多摩川流域では都市化の進展によって丘陵地のみどりが大幅に減少してきた。

農業や林業が衰退し、耕作放棄や雑木林の荒廃もみられる。

人手の入ったこれら「里やま」、「里地」は多様な動植物の生息地であり、水源涵養、河川の流量調整、水質保全、大気の浄化等にも大切な役割を果たしている。

本ワークショップでは財団の助成研究のなかから関連する研究を選び、研究報告並びに討論を通じて、人と自然の巧みな共生のあり方をあらためて見直したい。

プログラム

13:00	開会挨拶	とうきゅう環境浄化財団 理事長	新井喜美夫
13:05	報告1	①「多摩川中流域の屋敷林の研究—特に玉川上水周辺の屋敷林の構成」 '90～'91助成 ②「多摩川中流域における神社の境内の樹木の研究—特に樹種構成とその配置について」 '96～'97助成 東京都立武蔵高等学校 教諭	秋山 好則
13:35	報告2	「多摩川中流域の丘陵部における里山昆虫の研究」 '94助成 西多摩昆虫同好会 代表	久保田繁男
14:05	報告3	「多摩川およびその流域の都市化と環境保全」 '92～'95助成 日本自然保護協会 普及部長	中井 達郎
14:35	休憩 (15分)		
14:50	総合討論会	コーディネーター コメントーター	とうきゅう環境浄化財団 常務理事 東京農業大学 教授 芳村 重徳 進士五十八
16:00	閉会		

日時／平成10年8月6日(木)
13:00～16:00

場所／国連大学 5階
Conference Hall

定員／100名

参加費／無料

※駐車場はございませんので、
車での御来場はご遠慮下さい。



申込方法／

往復ハガキに住所・氏名（勤務先の場合は役職名、自宅の場合は所属団体名）各々の電話番号を明記し事務局までご送付下さい。

FAXでも可（要返信FAX番号）

申込み切／

お申込みは先着順で定員になり次第、〆切り
します。（定員以内の場合は、7月20日〆切り）

主催・お申込み・お問い合わせ／

(財)とうきゅう環境浄化財団

TEL (03)3400-9142

FAX (03)3400-9141

寄贈文献の紹介

- ・「多摩川散策絵図」・「四万十川散策絵図」
作・絵 松村 昭
1997年 アトリエ77 (TEL:0423-64-4441)

「多摩川散策絵図」は多摩川の源流から河口までの138kmを「四万十川散策絵図」は同196km

を各々幅20cm、長さ290cmの紙面に各々の川の流路を中心に周辺の自然景観、構造物（道路、鉄道、橋、堰、施設等）、動植物の生息状況等を描いたイラストマップである。見ていて楽しいし、現地散策のガイドブックでもある。

「多摩川散策絵図」は1986年初版の改訂版である。

〈平成10年度研究助成選考結果〉

去る3月13日第40回定時選考委員会を開催し、平成10年度の研究課題の選考を行い、学術研究10件一般研究6件が採用されました。研究課題は次のとおりです。

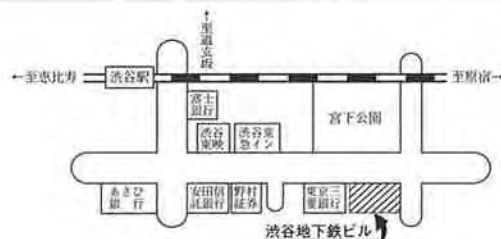
〔学術研究〕

研 究 課 題	代表研究者	所 属
多摩川流域河川に生育する水草のイオン吸収機構の細胞分子生物学的研究	福原 敏行	東京農工大学農学部応用生物科学科 助教授
生物保全のコリドーとしての玉川上水の動植物の調査	高槻 成紀	東京大学総合研究博物館 助教授
多摩川水源域に生育する草本植物集団の遺伝的組成におよぼす集団孤立化の定量的評価	大原 雅	東京大学大学院総合文化研究科 助教授
多摩川流域の土地利用形態が物質循環に与える影響に関する研究—これからの丘陵地域の環境保全—	安富 六郎	東京農業大学農学部農業工学科 教授
希土類元素群からみた多摩川水系の化学的評価	赤木 右	東京農工大学農学部 助教授
多摩川の絶滅危惧植物の回復を目指した復元生態学的手法の開発	小堀 洋美	武蔵工業大学環境情報学部 助教授
多摩川の流況調査に関する研究—羽村堰越流量と水利用形態の変更を中心とした流況調査—	宮村 忠	関東学院大学 教授
多摩川河口・下流域の魚介類内分泌攪乱物質（有機スズ化合物とポリオキシエチレンアルキルフェノール系中性洗剤を中心とした）汚染に関する研究	大槻 晃	東京水産大学海洋環境学科 教授
多摩川流域河川堆積物および土壌有機物中の硫黄、セレンの挙動	高野穆一郎	東京大学大学院総合文化研究科 教授
川崎・多摩川エコミュージアム構想をモデルとした市民・行政・企業・専門家におけるパートナーシップ型地域づくりに関する調査研究	進士五十八	東京農業大学農学部 部長

〔一般研究〕

研 究 課 題	代表研究者	所 属
多摩川流域の段丘形成と考古学的遺跡の立地環境	比田井民子	東京都埋蔵文化財センター 主任調査研究員
溪間工が河床形態（瀬・淵構造）に及ぼす影響と溪流魚類の生棲に関する研究	山下 晃	放送大学教養学部 3年
秋川上流域におけるナガレタゴガエルの生態学・発生学的研究と生棲環境の保全について	三輪 時男	あきる野市立御堂中学校 教諭
多摩川における環境体験とインターネットを活用したコミュニケーションに関する調査研究	荒木 稔	たまがわネット 幹事
多摩川における川魚漁のあゆみと遊漁（釣等）	笹川耕太郎	東京都立田園調布高校 教諭
多摩川流域と他地域の古井戸についての比較研究	角田 清美	東京都立武蔵村山高校 教諭

- 発行日 平成10年6月1日
- 編集兼発行 (財)とうきゅう環境浄化財団
〒150-0002 渋谷区渋谷1-16-14
(渋谷地下鉄ビル内)
TEL (03) 3400-9142
FAX (03) 3400-9141



*印刷所 雄文社 〒336-0001 浦和市常盤9-11-1 TEL (048) 831-8125